

レザーウエアを選ぶための

革知識



Photo / Toshiyuki Auchi 取材協力 / カドヤ : 03-3843-2000

革を知ればレザーウエアの つき合い方が変わってくる

「皮」と「革」の違い

バイカーとは切っても切れない素材である「かわ」。ひとくちに「かわ」と言っても「皮（スキン、ハイド）」と「革（レザー）」があるのは「存知だろっか？」

すべての動物は皮をまとっている。生きている状態での皮はみずみずしくとも柔らかい。この皮の組織は外側から表皮、乳頭層、網状層（この2つを合わせて真皮層といふ）、皮下組織からできている。通常我々が利用している部分は中間の真皮層（コラーゲン層）と呼ばれる部分である。乳頭層は銀面と呼ばれ、つるつるした部分であり、網状層は床面と呼ばれる繊維が絡み合った部分を言う。生きている時には柔らかい皮も剥がされた途端に変化が起る。「皮」とは原皮とも言い、動物の体から剥いでそのままの状態を言う。皮はそのままの状態では腐ったり硬くなったりする。読者も何かの拍子に自分の皮を剥いでしまった時、柔らかかった皮が途端に乾燥して硬くなったのを見たことがある人も多いだろう。この皮の状態では衣料として利用できないのはもちろん、保存しておくことすらできない。布を知らなかった大昔の人々は動物の皮を衣服に利用していたが、こういった腐敗や硬化を防ぐためにさまざまな加工をし、衣料として使えるようにしていた。この「皮」を加工して衣料として使えるようにしたものを「革」と言う。

バイカーが好む一番の素材は革だろう。しかし我々はこの「革」についてどれほど知っているだろうか？ここでは素材、ウエアの選び方、メンテナンス、レザー製品の製作とレザーに関するすべてを紹介する。

なめしの工程と種類

なめしは「皮」から「革」へ加工する作業のことを言う。先にも書いたが、皮はそのままの状態では腐ってしまう。これを防ぐためになめしの作業を行う。

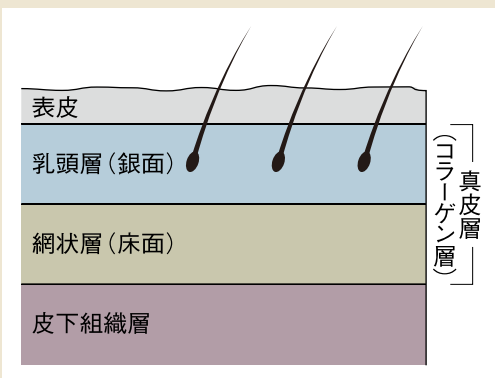
なめされた革は皮にない特徴を持つようになる。腐りにくく長期間保存ができるようになるだけでなく、耐熱性や耐水性も高まるようになる。また我々が知っている革特有の柔らかさを持つようになり、それでいて強靭性も高くなる。これらの特徴を持つことにより、衣料品の素材として利用することができるようになるのである。

この「なめし」の具体的な作業工程は、まず始めに腐敗を防ぐために塩漬けにされた原皮をきれいに洗い流す。この原皮には血液や肉片がついておりそれをきれいに取り除いてやる。次に石灰漬けにして皮のコラーゲン繊維をほくし脱毛する。これは革独特の柔らかさを得るのに必要な作業である。この時に表皮と皮下組織層は取り除かれる。場合によってはこの石灰漬けをもう一度行い、きれいに洗い流す。ここまでは準備工程と呼ばれる。ここから本来のなめし工程に入るわけだが、作業はなめし剤に漬け込むことにより行われる。このなめし剤に漬けることによってコラーゲン繊維を固定、安定化させ革としての重要な性質を与えてやるのである。なめしの工程のあとは染色、加脂、仕上げといくつかの工程を経て皮は革へとなるのである。

そしてこの「なめし」の方法にはさまざまな方法があり、それぞれの仕上がりに特徴を持っている。代表的ななめし方に「タンニンなめし」と「クロムなめし」。その両方の特徴を持たせた「混合なめし」がある。

タンニンなめし

タンニンなめしとは植物の樹皮、葉、果実から抽出したタンニン（渋…お茶などにも含まれている）に漬けてなめす方法。タンニンなめしされた革は経年変化をするのが特徴で、時間が経つにつれてあめ色に変わって



った腐敗や硬化を防ぐためにさまざまな加工をし、衣料として使えるようにしていた。この「皮」を加工して衣料として使えるようにしたものを「革」と言う。そしてこの皮を革に加工する作業のことを「なめし」と言う。ではあまり聞きなれないこの「なめし」という作業はどのような作業なのか、どのような作業なのだろうか？

なめしによる分類	
タンニン	植物の樹皮、葉果実などから抽出したタンニン（渋）に漬ける古代から行われているなめし方法。タンニンなめしされた革は時間が経つと共にあめ色に変化する。
クロム	塩基性硫酸クロム塩という薬品に漬けるなめし方法。柔軟性や耐水性などのさまざまな面で優れている。現在行われているなめしの主流。
混合	タンニンなめしとクロムなめしのお互いの欠点を補い良い点を持ち合わせる。細かい特徴は各タンナーによってさまざま。
その他	油なめし（代表的な革にセーム革）、アルミニウムなめし、ミョウバンなめし、ジルコニウムなめしなど。

原皮による分類		
牛皮	仔牛皮	カーフスキン 生後6ヶ月以内の仔牛の皮。きめ細かく柔らかいので牛皮の中でも最も上質とされる。
	中牛皮	キップスキン 生後6ヶ月から2年に満たない中牛の皮。カーフより厚手でカーフについて上質。
	成牛皮	カウハイダ 生後2年以上のメスの成牛の皮。ステア、プルほどの厚みはないが、きめが細かい。
		ステアハイダ 生後3～6ヶ月以内に去勢したオスで2歳以上の牛の皮。バイカーに最も身近な皮。
	フルハイダ 生後3年以上のオスの成牛の皮。厚手になり繊維は粗く、比較的傷も多い。	
馬皮	馬皮の組織は牛に似ているが、全体的に粗い。強度もやや劣る。しかし尻部分の皮は強度も強く高級品。	
鹿皮	柔らかく肌触りがいい。耐水性があって、洗っても硬くならず伸びても元に戻る。	
羊皮	シープスキンとラムスキンに分かれる。どちらも柔らかくきめが細かい。高級衣料に使われる。	
山羊皮	ゴートスキンとキッドスキンに分けられる。特徴的な銀面を持ち、伸縮性があるとしておりしている。	
豚皮	表面に毛穴が3つずつ並ぶといった特徴があり、通気性も良い。唯一国内供給ができる皮。	

加工による分類	
スエード	革の裏面（肉面）をサンドペーパーでベルベット状に毛羽立たせた革。毛足が短くソフトなもののほど上質とされる。主に仔牛皮や山羊皮から作られる。
ベロア	スエードと同じように革の裏面を毛羽立たせたものだが、こちらの方が毛が長く粗い。スエードが仔牛皮を使って作られるのに対し、ベロアは成牛皮を使って作られる。
バックスキン	鹿革の銀面を毛羽立たせピロード状にした革。とても柔らかくスエードと同じように扱われ、スエードと呼ばれることもある。
ヌバック	牛革の銀面（表面）をサンドペーパーで毛羽立たせた革。スエードよりも毛が短く、ピロード上になっている。高級衣料やハンドバッグに使われる。
オイルレザー	革に大量のオイルを染み込ませたもの。クロムなめしの革であってもオイルレザーであれば、ある程度は経年変化を楽しむことができる。
サドルレザー	タンニンなめしで仕上げられた革にオイルとロウを染み込ませた革。時間が経つにつれてあめ色に変わっていき、経年変化を楽しむことができる。
エナメル革	クロムなめしのあとに銀面に光沢のあるウレタンなどの樹脂塗装を行った革。汚れにくく手入れも簡単だが、寒さに弱くひび割れしやすい。
型押し革	革の銀面に加熱高圧プレスで型や模様をつけたもの。独特のシボをつけたリ、ワニやトカゲなど爬虫類の革に似せるものが多い。

これらなめし方法の他に油なめし（代表的な革にセーム革や剣道の竹刀の柄の部分の革がある）、アルミニウムなめしなどがある。

混合なめしとはタンニンなめしとクロムなめしの両方を組み合わせた方法。それぞれの特徴を持つことができ、それぞれの欠点を補う効果がある。この混合なめしの方法はタンナー（皮をなめす専門業者）によってさまざまであり、企業秘密でもある。

その他

これらのなめし方法の他に油なめし（代表的な革にセーム革や剣道の竹刀の柄の部分の革がある）、アルミニウムなめしなどがある。

混合なめしとはタンニンなめしとクロムなめしの両方を組み合わせた方法。それぞれの特徴を持つことができ、それぞれの欠点を補う効果がある。この混合なめしの方法はタンナー（皮をなめす専門業者）によってさまざまであり、企業秘密でもある。

その他

強く、しっかりとしている。

ロードバン：馬の尻部の皮。繊維組織は細かくとても丈夫。1頭から取れる量はわずしかなく非常に希少。

ホースレザー：牛革と比べると密度や強度は弱い。しかし、表面はスムーズで柔らかい。適量が少ないので若干高い。

鹿革

ディアスキン：柔らかく肌触りがいい。耐水性があって、洗っても硬くならず伸びても元に戻る。鹿皮を油なめしたものをセーム革と言つ。

羊皮

シープスキン：きめが細かく柔らかさは抜群。しっかりとした感じで高級衣料に使われる。ただし強度はそれほど強くなく、皮の層が2層に分かれやすい。

ラムスキン：生後1年以内の仔羊の皮。シープスキン以上に感触が良く、高級品。

山羊皮

ゴートスキン：銀面に特徴的なシボ（凹凸）を持ち、伸縮性があるとしており、強度も強い。

キッドスキン：仔山羊の皮。ゴートスキン同様の特徴的な銀面を持ち、高級な皮として用いられる。

豚皮

ビッグスキン：表面に毛穴が3つずつ並ぶといった特徴があり、通気性も良い。唯一国内供給ができる皮。

なめしの種類によって革は特徴を持つようになり、最終的な加工方法によってさまざまな特徴を持つようになる。言い換えれば、原皮が同じであっても加工によってまったく別の革になるといふことだ。ここではその加工の種類と特徴を紹介する。また加工によって1種類の革だけに行われるとは決まっていない。例えばスエードという加工方法は仔牛革に行われることが多いが、山羊革や羊革にもよく行われる。その点も間違えないようにしよう。

スエード

革の裏面（肉面）をサンドペーパーでベルベット状に毛羽立たせた革。毛足が短くソフトなものほど上質とされる。主に仔牛皮や山羊皮から作られる。

ベロア

スエードと同じように革の裏面を毛羽立たせたものだが、こちらの方が毛が長く粗い。スエードが仔牛皮を使って作られるのに対し、ベロアは成牛皮を使って作られる。

バックスキン

鹿革の銀面を毛羽立たせピロード状にした革。とても柔らかくスエードと同じように扱われ、スエードと呼ばれることもある。

ヌバック

牛革の銀面（表面）をサンドペーパーで毛羽立たせた革。スエードよりも毛が短く、ピロード上になっている。高級衣料やハンドバッグに使われる。

オイルレザー

革に大量のオイルを染み込ませたもの。クロムなめしの革であってもオイルレザーであれば、ある程度は経年変化を楽しむことができる。

サドルレザー

タンニンなめしで仕上げられた革にオイルとロウを染み込ませた革。時間が経つにつれてあめ色に変わっていき、経年変化を楽しむことができる。

エナメル革

クロムなめしのあとに銀面に光沢のあるウレタンなどの樹脂塗装を行った革。汚れにくく手入れも簡単だが、寒さに弱くひび割れしやすい。パテントレザーとも呼ばれる。

型押し革

革の銀面に加熱高圧プレスで型や模様をつけたもの。独特のシボをつけたリ、ワニやトカゲの革に似せるものが多い。

ロード状になっている。起毛革にはベロアやヌバックなどがあるように、すべてスエードと言ってしまうのは間違い。

オイルレザー

革に大量のオイルを染み込ませたもの。なめし工程の中には加脂工程があつてどんな革にもオイルが入っているが、それ以上に革にオイルを染み込ませたものを言う。経年変化のしにくいクロムなめしの革であっても経年変化が出やすい。馴染んでくればわがけると、初めは均一に入っていたオイルが偏つて色の変化ができ、コントラストを楽しむことができるためである。

サドルレザー

タンニンなめしで仕上げられた革にオイルとロウを染み込ませた革。我々バイカーにも馴染み深い。本来は馬の鞍（サドル）を作るために生まれた革と言われている。タンニンなめしであるため、時間が経つにつれてあめ色に変わっていき、経年変化を楽しむことができる。

エナメル革

クロムなめしのあとに銀面に光沢のあるウレタンなどの樹脂塗装を行った革。汚れにくく手入れも簡単だが、寒さに弱くひび割れしやすい。パテントレザーとも呼ばれる。

型押し革

革の銀面に加熱高圧プレスで型や模様をつけたもの。独特のシボをつけたリ、ワニやトカゲの革に似せるものが多い。

いき風合いが出てくる。形が整いやすく崩れにくい。そのためサドルバッグなどに良く使われる。代表的なものにヌメ革（タンロー）がある。衣類への使用はその特徴からなかなか難しい。またタンニンなめしはタンニンの皮への浸透が遅いため、仕上げまでに1ヶ月以上と時間が非常にかかる。当然重さも高くなり、革自体の値段も高くなつてしまふ。バイカーに馴染み深いサドルレザーはこのヌメ革にオイルとロウを多量に加えたものを言う。

クロムなめし

クロムなめしとは現在最も多く行われているなめし方法で、基性硫酸クロム塩という物質を使ってなめす方法。柔軟性、伸縮性、耐水性、耐熱性、染色性に優れ、なめしの期間も少なくすむことから価格も比較的安い。経年変化を楽しむという点ではタンニンなめしに劣る。革ジャンや革パン、ブーツなど衣料としてのレザー類はほとんどこの革だと思つて間違いないだろう。

混合なめし

混合なめしとはタンニンなめしとクロムなめしの両方を組み合わせた方法。それぞれの特徴を持つことができ、それぞれの欠点を補う効果がある。この混合なめしの方法はタンナー（皮をなめす専門業者）によってさまざまであり、企業秘密でもある。

その他

衣料としての革と言つて真つ先に思いつくるのは牛革である。確かに最も使われていることに間違いはないが、我々が衣料として使用する動物にはさまざまなものがあり、それぞれの革にはそれぞれの特徴がある。ここでは代表的なものの特徴を紹介する。

牛皮

革製品のほとんどは牛皮で作られている。しかし日本ではほとんど供給がなく、多くは海外からの輸入物。牛皮の特徴は繊維組織が均一で強度がある。また供給も多いため比較的価格も安定している。牛皮は年齢や性別によつて次のような種類に分類されている。

カーフスキン：生後6ヶ月以内の仔牛の皮。きめ細かく柔らかいので牛皮の中で最も上質とされる。

キップスキン：生後6ヶ月から2年に満たない中牛の皮。カーフより厚手でカーフについて上質。

カウハイダ：生後2年以上のメスの成牛の皮。ステア、プルほどの厚みはないが、きめが細かい。

ステアハイダ：生後3～6ヶ月以内に去勢したオスで2歳以上の牛の皮。バイカーに最も身近な皮。

フルハイダ：生後3年以上のオスの成牛の皮。厚手になり繊維は粗く、比較的傷も多い。

強く、しっかりとしている。

ロードバン：馬の尻部の皮。繊維組織は細かくとても丈夫。1頭から取れる量はわずしかなく非常に希少。

ホースレザー：牛革と比べると密度や強度は弱い。しかし、表面はスムーズで柔らかい。適量が少ないので若干高い。

鹿革

ディアスキン：柔らかく肌触りがいい。耐水性があって、洗っても硬くならず伸びても元に戻る。鹿皮を油なめしたものをセーム革と言つ。

羊皮

シープスキン：きめが細かく柔らかさは抜群。しっかりとした感じで高級衣料に使われる。ただし強度はそれほど強くなく、皮の層が2層に分かれやすい。

ラムスキン：生後1年以内の仔羊の皮。シープスキン以上に感触が良く、高級品。

山羊皮

ゴートスキン：銀面に特徴的なシボ（凹凸）を持ち、伸縮性があるとしており、強度も強い。

キッドスキン：仔山羊の皮。ゴートスキン同様の特徴的な銀面を持ち、高級な皮として用いられる。

豚皮

ビッグスキン：表面に毛穴が3つずつ並ぶといった特徴があり、通気性も良い。唯一国内供給ができる皮。

なめしの種類によって革は特徴を持つようになり、最終的な加工方法によってさまざまな特徴を持つようになる。言い換えれば、原皮が同じであっても加工によってまったく別の革になるといふことだ。ここではその加工の種類と特徴を紹介する。また加工によって1種類の革だけに行われるとは決まっていない。例えばスエードという加工方法は仔牛革に行われることが多いが、山羊革や羊革にもよく行われる。その点も間違えないようにしよう。

スエード

革の裏面（肉面）をサンドペーパーでベルベット状に毛羽立たせた革。毛足が短くソフトなものほど上質とされる。主に仔牛皮や山羊皮から作られる。

ベロア

スエードと同じように革の裏面を毛羽立たせたものだが、こちらの方が毛が長く粗い。スエードが仔牛皮を使って作られるのに対し、ベロアは成牛皮を使って作られる。

バックスキン

鹿革の銀面を毛羽立たせピロード状にした革。とても柔らかくスエードと同じように扱われ、スエードと呼ばれることもある。

ヌバック

牛革の銀面（表面）をサンドペーパーで毛羽立たせた革。スエードよりも毛が短く、ピロード上になっている。高級衣料やハンドバッグに使われる。

オイルレザー

革に大量のオイルを染み込ませたもの。クロムなめしの革であってもオイルレザーであれば、ある程度は経年変化を楽しむことができる。

サドルレザー

タンニンなめしで仕上げられた革にオイルとロウを染み込ませた革。我々バイカーにも馴染み深い。本来は馬の鞍（サドル）を作るために生まれた革と言われている。タンニンなめしであるため、時間が経つにつれてあめ色に変わっていき、経年変化を楽しむことができる。

エナメル革

クロムなめしのあとに銀面に光沢のあるウレタンなどの樹脂塗装を行った革。汚れにくく手入れも簡単だが、寒さに弱くひび割れしやすい。パテントレザーとも呼ばれる。

型押し革

革の銀面に加熱高圧プレスで型や模様をつけたもの。独特のシボをつけたリ、ワニやトカゲの革に似せるものが多い。

ロード状になっている。起毛革にはベロアやヌバックなどがあるように、すべてスエードと言ってしまうのは間違い。

オイルレザー

革に大量のオイルを染み込ませたもの。なめし工程の中には加脂工程があつてどんな革にもオイルが入っているが、それ以上に革にオイルを染み込ませたものを言う。経年変化のしにくいクロムなめしの革であっても経年変化が出やすい。馴染んでくればわがけると、初めは均一に入っていたオイルが偏つて色の変化ができ、コントラストを楽しむことができるためである。

サドルレザー

タンニンなめしで仕上げられた革にオイルとロウを染み込ませた革。我々バイカーにも馴染み深い。本来は馬の鞍（サドル）を作るために生まれた革と言われている。タンニンなめしであるため、時間が経つにつれてあめ色に変わっていき、経年変化を楽しむことができる。

エナメル革

クロムなめしのあとに銀面に光沢のあるウレタンなどの樹脂塗装を行った革。汚れにくく手入れも簡単だが、寒さに弱くひび割れしやすい。パテントレザーとも呼ばれる。

型押し革

革の銀面に加熱高圧プレスで型や模様をつけたもの。独特のシボをつけたリ、ワニやトカゲの革に似せるものが多い。

強く、しっかりとしている。

ロードバン：馬の尻部の皮。繊維組織は細かくとても丈夫。1頭から取れる量はわずしかなく非常に希少。

ホースレザー：牛革と比べると密度や強度は弱い。しかし、表面はスムーズで柔らかい。適量が少ないので若干高い。

鹿革

ディアスキン：柔らかく肌触りがいい。耐水性があって、洗っても硬くならず伸びても元に戻る。鹿皮を油なめしたものをセーム革と言つ。

羊皮

シープスキン：きめが細かく柔らかさは抜群。しっかりとした感じで高級衣料に使われる。ただし強度はそれほど強くなく、皮の層が2層に分かれやすい。

ラムスキン：生後1年以内の仔羊の皮。シープスキン以上に感触が良く、高級品。

山羊皮

ゴートスキン：銀面に特徴的なシボ（凹凸）を持ち、伸縮性があるとしており、強度も強い。

キッドスキン：仔山羊の皮。ゴートスキン同様の特徴的な銀面を持ち、高級な皮として用いられる。

豚皮

ビッグスキン：表面に毛穴が3つずつ並ぶといった特徴があり、通気性も良い。唯一国内供給ができる皮。

なめしの種類によって革は特徴を持つようになり、最終的な加工方法によってさまざまな特徴を持つようになる。言い換えれば、原皮が同じであっても加工によってまったく別の革になるといふことだ。ここではその加工の種類と特徴を紹介する。また加工によって1種類の革だけに行われるとは決まっていない。例えばスエードという加工方法は仔牛革に行われることが多いが、山羊革や羊革にもよく行われる。その点も間違えないようにしよう。

スエード

革の裏面（肉面）をサンドペーパーでベルベット状に毛羽立たせた革。毛足が短くソフトなものほど上質とされる。主に仔牛皮や山羊皮から作られる。

ベロア

スエードと同じように革の裏面を毛羽立たせたものだが、こちらの方が毛が長く粗い。スエードが仔牛皮を使って作られるのに対し、ベロアは成牛皮を使って作られる。

バックスキン

鹿革の銀面を毛羽立たせピロード状にした革。とても柔らかくスエードと同じように扱われ、スエードと呼ばれることもある。

ヌバック

牛革の銀面（表面）をサンドペーパーで毛羽立たせた革。スエードよりも毛が短く、ピロード上になっている。高級衣料やハンドバッグに使われる。

オイルレザー

革に大量のオイルを染み込ませたもの。クロムなめしの革であってもオイルレザーであれば、ある程度は経年変化を楽しむことができる。

サドルレザー

タンニンなめしで仕上げられた革にオイルとロウを染み込ませた革。時間が経つにつれてあめ色に変わっていき、経年変化を楽しむことができる。

エナメル革

クロムなめしのあとに銀面に光沢のあるウレタンなどの樹脂塗装を行った革。汚れにくく手入れも簡単だが、寒さに弱くひび割れしやすい。

型押し革

革の銀面に加熱高圧プレスで型や模様をつけたもの。独特のシボをつけたリ、ワニやトカゲの革に似せるものが多い。

強く、しっかりとしている。

ロードバン：馬の尻部の皮。繊維組織は細かくとても丈夫。1頭から取れる量はわずしかなく非常に希少。

ホースレザー：牛革と比べると密度や強度は弱い。しかし、表面はスムーズで柔らかい。適量が少ないので若干高い。

鹿革

ディアスキン：柔らかく肌触りがいい。耐水性があって、洗っても硬くならず伸びても元に戻る。鹿皮を油なめしたものをセーム革と言つ。

羊皮

シープスキン：きめが細かく柔らかさは抜群。しっかりとした感じで高級衣料に使われる。ただし強度はそれほど強くなく、皮の層が2層に分かれやすい。

ラムスキン：生後1年以内の仔羊の皮。シープスキン以上に感触が良く、高級品。

山羊皮

ゴートスキン：銀面に特徴的なシボ（凹凸）を持ち、伸縮性があるとしており、強度も強い。

キッドスキン：仔山羊の皮。ゴートスキン同様の特徴的な銀面を持ち、高級な皮として用いられる。

豚皮

ビッグスキン：表面に毛穴が3つずつ並ぶといった特徴があり、通気性も良い。唯一国内供給ができる皮。

なめしの種類によって革は特徴を持つようになり、最終的な加工方法によってさまざまな特徴を持つようになる。言い換えれば、原皮が同じであっても加工によってまったく別の革になるといふことだ。ここではその加工の種類と特徴を紹介する。また加工によって1種類の革だけに行われるとは決まっていない。例えばスエードという加工方法は仔牛革に行われることが多いが、山羊革や羊革にもよく行われる。その点も間違えないようにしよう。

スエード

革の裏面（肉面）をサンドペーパーでベルベット状に毛羽立たせた革。毛足が短くソフトなものほど上質とされる。主に仔牛皮や山羊皮から作られる。

ベロア

スエードと同じように革の裏面を毛羽立たせたものだが、こちらの方が毛が長く粗い。スエードが仔牛皮を使って作られるのに対し、ベロアは成牛皮を使って作られる。

バックスキン

鹿革の銀面を毛羽立たせピロード状にした革。とても柔らかくスエードと同じように扱われ、スエードと呼ばれることもある。

ヌバック

牛革の銀面（表面）をサンドペーパーで毛羽立たせた革。スエードよりも毛が短く、ピロード上になっている。高級衣料やハンドバッグに使われる。

オイルレザー

革に大量のオイルを染み込ませたもの。クロムなめしの革であってもオイルレザーであれば、ある程度は経年変化を楽しむことができる。

サドルレザー

タンニンなめしで仕上げられた革にオイルとロウを染み込ませた革。時間が経つにつれてあめ色に変わっていき、経年変化を楽しむことができる。

エナメル革

クロムなめしのあとに銀面に光沢のあるウレタンなどの樹脂塗装を行った革。汚れにくく手入れも簡単だが、寒さに弱くひび割れしやすい。

型押し革

革の銀面に加熱高圧プレスで型や模様をつけたもの。独特のシボをつけたリ、ワニやトカゲの革に似せるものが多い。

強く、しっかりとしている。

ロードバン：馬の尻部の皮。繊維組織は細かくとても丈夫。1頭から取れる量はわずしかなく非常に希少。

ホースレザー：牛革と比べると密度や強度は弱い。しかし、表面はスムーズで柔らかい。適量が少ないので若干高い。

鹿革

ディアスキン：柔らかく肌触りがいい。耐水性があって、洗っても硬くならず伸びても元に戻る。鹿皮を油なめしたものをセーム革と言つ。

羊皮

シープスキン：きめが細かく柔らかさは抜群。しっかりとした感じで高級衣料に使われる。ただし強度はそれほど強くなく、皮の層が2層に分かれやすい。

ラムスキン：生後1年以内の仔羊の皮。シープスキン以上に感触が良く、高級品。

山羊皮

ゴートスキン：銀面に特徴的なシボ（凹凸）を持ち、伸縮性があるとしており、強度も強い。

キッドスキン：仔山羊の皮。ゴートスキン同様の特徴的な銀面を持ち、高級な皮として用いられる。

豚皮

ビッグスキン：表面に毛穴が3つずつ並ぶといった特徴があり、通気性も良い。唯一国内供給ができる皮。